

雲くも
(大窪詩仏おおくほしぶつ)

霧きりに 似に 煙けむりに 似に 還また 雨あめに 似に たり

霏ひひ々 漠ばくばく々 更さらに 粉ふんふん々

須臾しゆゆにして 風かぜ 起おこつて 吹ふき 將もち去さり

去さつて 前山ぜんざん 一帯いったいの 雲くもと 作さる

似霧似煙還似雨 霏霏漠漠更紛紛
須臾風起吹將去 去作前山一帶雲

解説 この詩は西へ旅をする途中、箱根山中で雲を見て作つた詩である。

語釈 ※霏霏||雨や雪が細かく降りしきる様子。
※漠漠||連なつて降り、うす暗い様子。 ※紛紛||乱れ降るさま。 ※須臾||しばらく。少しの間。

通釈 霧のようでもあり、煙のようでもあり、また、雨のようでもある。ちらちらと、またいっばいに広がり、さらに、乱れて立ちこめる。しばらくして、一陣の風が吹いてこの物を持ち去つた後には、前山一帯の雲となつてたなびいている。